

## 事例レポート ①

# 総合リサイクル業への変身と地域貢献活動

株式会社マテック  
顧問 小笠原 紘一氏



廃品回収業から総合リサイクル業へ変身、高い技術力で再生可能なあらゆる資源の創造にチャレンジ。リサイクル産業の社会的地位を高めるためにもCI事業の展開や社会貢献分野でも業界を牽引する努力が続けられています。

### 地域社会や教育分野との連携

昨年、創業70年の記念事業でリサイクルポイントカードシステムを本格稼働し、リサイクルビデオを制作配布しました。

リサイクルポイントカードシステムは、空き缶など持込んだ資源物に応じて、購入料金とは別にカードにポイントを貯めてもらい、好きな商品に交換できる画期的なシステムです。グリーン購入対象商品や福祉・慈善活動に対応できる商品までそろえています。子供たちにモノを大切にすることを養ってほしいと思って導入しましたが、町内会などいろいろなグループで利用されています。



昨年から始まった  
リサイクルポイントカードシステム

リサイクルビデオは、現代社会の仕組みやリサイクルの大切さを、分かりやすく楽しく学べる学習ビデオです。全道の学校に配布しました。先生方にも非常に好評で、もっと送ってほしいと道庁や学校からの引き合いが多くありました。

工場設備の一般開放は業界の中でも率先してやってきました。安全に楽しく見学してもらえるよう、見学者と作業員がお互い邪魔にならないよう見学通路などを設け、児童向けの資料なども用意しています。

スペースも必要だし、お金もかかりますが、企業が地域社会に根ざして共存していくためには重要なことだと思っています。これまでも学校や地域の方など多くの方が見学に訪れています。

地域のイベントなどにも積極的に協力しています。2002年に帯広競馬場で世界の現代アートを集めて好評だった「とかち国際現代アート展“デメーテル”」にも積極的に協賛しました。また、東京での環境展やアクセス札幌でのリサイクル展（I Love Recycle）にもずっと参加しています。

### リサイクル産業が社会的理解を得て行くために

リサイクル産業は、限られた資源の地球で文明社会を維持していくためには重要な産業です。しかし、残念ながら、産業や企業としての社会認識や理解度が非常に低く、いまだに理解されていない面があります。

そこで、私どもはリサイクル事業に対する社会的認識を改善していくために、さまざまな努力をしてきました。1992年にはCI（コーポレート・アイデンティティ）事業を展開して、社名を丸八杉山商店からマテックに変更し、総合リサイクル業としての姿勢を打ち出しました。マテック（MATEC）はMATERIAL（資源）とCREATION（創造）の造語ですが、資源を破壊せずに、先進の技術で再生可能な資源の創造を行っていくという意味を込めています。

昨年はテレビコマーシャルも放映しました。リサイクル業でコマーシャルを放映したのは当社が道内で初めてです。こうしたことで、400人の社員の意識も変わってきましたし、取引の引き合いなども増えています。また、これまで求人にも苦労してきましたが、学生の求職希望が増えてきました。

企業理念の一つに、天然資源や加工物に次ぐ第3の資源創造開発企業とうたっていますが、常にこうした哲学の上に立って、カッコいいと思われる企業姿勢を示していきたいと思っています。

昨年、当社の代表取締役の杉山博康が鉄リサイクル工業会の北海道支部長に就任しました。工業会としても、リサイクル業への見方を変えてもらえるような努力をしていきたいと思っています。

